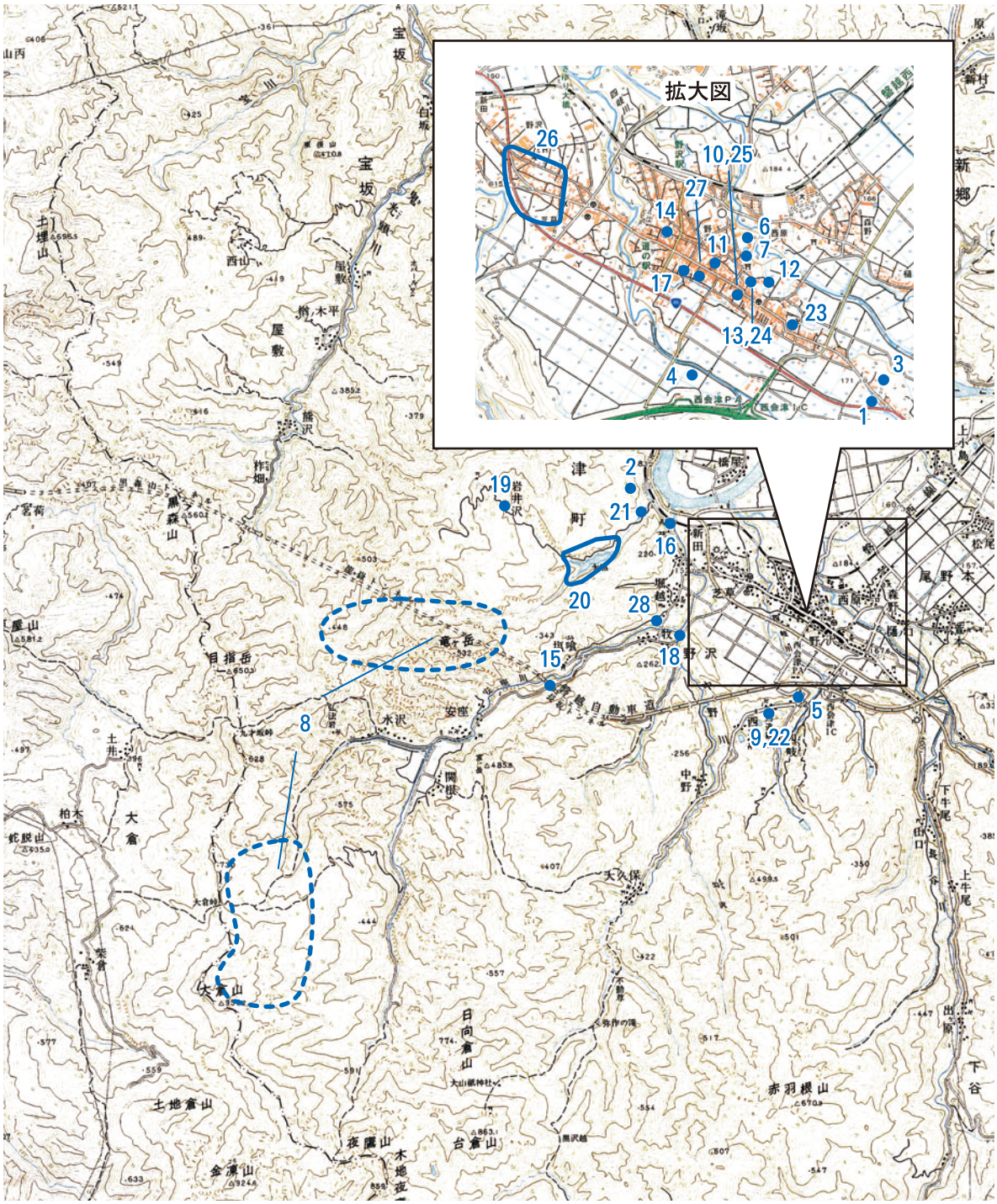
7．各地の５選以外の物語紹介

① 野沢地区

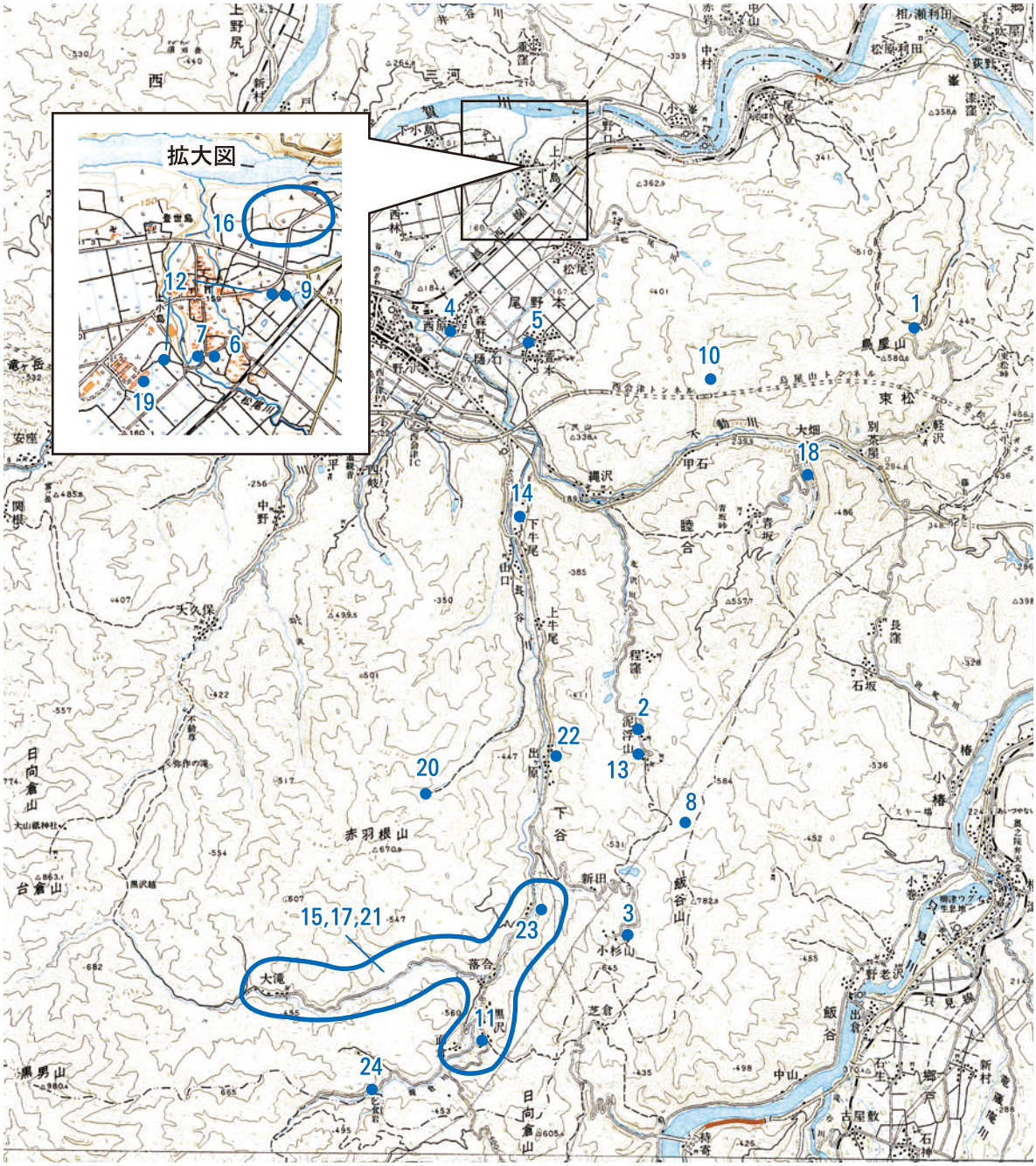


1　諏方神社前の一里塚
2　芹沼の一里塚
3　鉄火裁判を行った諏方神社
4　中地の桜
5　杉木之覚碑
6　荒井館跡・御茶屋・郷蔵
7　代官清水
8　安座のコウヤマキ自生地
9　如法寺のコウヤマキ
10　本陣
11　脇本陣
12　旧代官所
13　常楽寺
14　常泉寺
15　塩喰岩陰遺跡
16　芹沼の大山祇神社への道標
17　原町の大山祇神社への道標
18　河童のお化け
19　岩井沢集落
20　大沼
21　小沼
22　角力とり仁王
23　化け燈籠
24　三狐物語
25　松平容保が出馬した本陣
26　芝草・小屋田遺跡
27　俵引きを行った場所
　　(現ふるさと自慢館)
28　小中奈遺跡

諏方神社前と芹沼の一里塚 (本町・芹沼、1・2) 寛文7年(1667)、会津藩では幕府の巡見使を迎えるにあたり、一里を4kmにして一里塚を築いた。一里塚は2基一対が普通であるが、両者とも片方だけが残っている。本町のは明確であるが、芹沼のものは形が不明確である。	**鉄火裁判**　(本町、3) 元和5年(1619)、松尾村と縄沢村で山境をめぐる争いが起り、鉄火裁判によって決着をつけることとなった。諏方神社前で行われた結果、縄沢村の者の勝利となり、敗れた松尾村の者は身体を切り分けられ山境として埋められた。
中地の桜　(原町、4) いつの頃か、西平羽黒権現山の館に住む地頭の石川冠者が小島村地頭の中地景虎を酒宴に招き、帰りに稲藁で泥田を隠した所に誘い込み討ち取った。後年、里人たちが景虎を憐れみ、墓を建て桜を植えて霊を慰めた。	**杉木之覚碑**　(西平、5) 天保2年(1831)、野沢組代官所が、各村に災害が起こった時の備えとして植えた杉の植栽維持の定めを刻み込んで建てた碑。元々は本陣前高札場に建てられた。近世民政史の貴重な資料。県指定重要文化財。
荒井館・御茶屋・郷蔵　(原町、6) 旧野沢小学校跡で、荒井信濃守頼任が正安(1299〜1301)の頃に築いた館があった。江戸時代は保科正之が宿泊する御茶屋(のちの本陣)がおかれ、ここにのち、郷蔵や社倉が建てられ、また代官所や民政局などがおかれた。	**代官清水**　(原町、7) 荒井館の傍らにあったので「館の清水」と呼ばれていたが、代官所が移設されたため「代官清水」と呼ばれるようになった。藩主・松平容敬も領内巡視の折に吟味した清水であり、「ふくしまの水三十選」の1つ。
安座・如法寺のコウヤマキ (安座・西平、8・9) かつてコウヤマキは全国に自生していたが、古くから桶材として逸品といわれ、盛んに伐採されたため、自生地は珍しくなった。安座は自生地として北限といわれ、学術的に貴重である。如法寺には見事な巨木がある。	**本陣・脇本陣**　(原町、10•11) 享保6年(1721)、御茶屋屋敷は本陣と改められ、原町の五十嵐文太郎宅に移っている。大名が宿泊する本陣は身分が高い者が宿泊できた。本陣に不都合がある時に代勤するのが脇本陣の十一塩屋。現場所は西会津町公民館。
旧代官所　(原町、12) 慶安2年(1649)〜文化6年(1809)頃まで常楽寺東隣で本町との境にあった。事務方の建物は東向き長屋で常楽寺側に寄っていた。代官所は長屋より少し裏に引っ込み、玄関は南向きで西の方はすべて入口になっていた。	**狐の仇討ち**　(芝草・原町) いつの頃か、芝草村に根々兵衛・おこん夫婦がいた。原町村の猪鼻与吉が手下と悪だくみをして根々兵衛を殺してしまった。後年、おこんと2人の子供が本町村の稲荷大明神のご加護を受けて見事に仇討ちを成し遂げた。
常楽寺　(原町、13) 寺の開基は不明だが、越後村松の安養寺の孝心が再興した。曹洞宗である。会津戦争の時、逃げ遅れた長岡藩士2名が新政府軍に惨殺され、その遺骸の首と胴がバラバラだったため「首と胴の墓」として葬られている。	**常泉寺**　(原町、14) 天正4年(1576)の開基。元は月光寺だが百万遍の知恩寺の僧が泊まった時、知恩寺の末寺として今の寺号に改めたという。本尊は木造阿弥陀如来坐像。地蔵堂の地蔵は「野沢の子育て地蔵(黒地蔵)」として有名。

塩喰岩陰遺跡　(塩喰、15) 岩陰内の土層中に土器・石器・石皿・動物骨・須恵器など縄文草創期から平安時代に至るまでの遺物が重なって出土。縄文後期の埋葬人骨と装飾品と思われるメジロサメ科ヨゴレの歯牙が発見された貴重な遺跡。	**大山祇神社への道標**　(芹沼・原町、16・17) 芹沼のJRの鉄橋付近から安座川に降りる場所に越後水原の講中の人々が元治元年(1864)に設置した道標が朽ち果てながら残っている。また、道路工事に伴い移動しているが、野沢の町から大山祇神社へ向かう道標もある。
河童のお化け　(堀越、18) 堀越と牧の間に架かる牧橋があり、夜この橋を渡ろうとすると河童のお化けが出た。初めは小さいが目の前でノロッと大きくなるという。今は橋も変わり周りも明るくなったので河童の話は聞かなくなった。	**岩井沢と大沼・小沼**　(岩井沢、19～21) 昔、岩井沢は中村といって岩井沢上方にある御前沼下の集落であった。会津大地震で御前沼が決壊し、岩井沢に移った。岩井沢の下にある大沼と小沼は、この時の地震で川がせき止められてできた沼である。御前沼には伝説がある。
角力とり仁王　(西平、22) 日暮れの如法寺坂で「角力とろう」と勝負を挑む仁王がいた。それに困り果てた里人たちが如法寺の僧とともに探しまわったら、観音堂の床下に寝ているのを見つけ、しばって天井裏に閉じ込めた。以来姿を見せることはなかった。	**化け燈籠**　(本町、23) 参勤交代で無礼討ちとなった男の家族が長谷川に身を投じたのを哀れみ、六地蔵を建てた。それから毎夜、妖怪が出現した。ある時、飛脚が出てきた火の玉を斬りつけると、翌日六地蔵に刀傷があり、それ以降妖怪の出現は止んだ。
三狐物語　(原町、24) 江戸時代のある時、３匹の化け上手の狐がいた。ある日、常楽寺にある純金の燭台を奪うという悪だくみに成功した。しかし、本物の長岡の殿様の心利いた家来が伏見稲荷大明神の使者といつわり、燭台を狐から取り返した。	**会津宰相松平容保野沢本陣に出馬** (原町、25) 旧暦８月１日から13日まで越後戦線督励のため野沢本陣に出馬。家老菅野権兵衛ほか小姓・茶坊主を含め約100人といわれている。その中に士中白虎一番隊もいた。白虎二番隊は坂下より藩主喜徳警護のため帰城。
芝草・小屋田遺跡　(芝草、26) 芝草集落にある面積70,000㎡に及ぶ大規模な縄文中期～後期の集落跡。この遺跡から火炎系土器や王冠型土器など学術的に貴重な縄文土器が出土している。また、床面に扁平な川原石を敷きつめた敷石住居跡が復元されている。	**野沢の市**　(原町、27) 正月13日の市祭りは「初市」といって、新年初めの市を祝った。その神事の一環として「俵引き」などが行われたが現在は行われない。初市には多くの露店が並び、人々が集まり縁起物などを買い求める。
草刈踊り・甚句踊り　(原町・本町) 起源は古く、幕末にはすでにあったといわれている。草刈り労働の苛酷さを無伴奏の掛け合いで歌い踊る盆踊りである。甚句踊りは草刈踊りとセットで踊られていて、櫓の上で太鼓が打たれる。	**小中奈遺跡**　(堀越、28) 堀越集落の南端にある縄文～弥生の遺跡。『新編会津風土記』にも土器出土の記録が残されている。この遺跡で発見された石包丁が山形県鶴岡市の致道博物館に保管されており、県内でも数少ない出土例の１つである。

② 尾野本地区



1　束松塩坪層の漣痕
2　不時囲杉木組定御請
3　大杉山村地震遭難者供養塔
　　大杉山村御水帳
4　夜泣き地蔵
5　萱本の百万遍
6　旧善応寺御正体
　　銅造如来坐像懸仏
7　上小島のオサイ神様
8　一貫清水
9　山本遺跡
10　入小屋の追剥
11　蝦夷神社
12　小島煉瓦工場騒動
13　二栗村
14　気付清水
15　黒沢の早乙女踊り
16　上小島遺跡
17　黒沢水害とブラジル移民
18　不動滝・機織り滝・雨降り滝
19　上ノ台遺跡
20　赤羽根鉱山
21　虫送りと鳥追い
22　伊豆原神社と御神木
23　黒沢発電所
24　乞食岩

束松塩坪層の漣痕化石　(軽沢、1) 海底などに残された波の跡の化石。県指定天然記念物。泥岩は細かい粒で1500〜1600万年前頃、日本列島の大部分が海だった頃に海の深い所で堆積したものと考えられている。周辺では、魚のうろこや貝の化石を見つけることができる。	**不時囲杉木組定御請**　(泥浮山、2) 県指定重要文化財。殖産事業の傍証の貴重な資料。天保2年(1831)の杉木之覚碑文に、野沢組の各村が災害の備えとして杉を植え手入れを怠らず育てる事等が明記されている。内容は碑文の条々を固く守るという村契約書。上野尻にも同様のものが残されている。
大杉山村慶長地震遭難者供養塔・大杉山村御水帳　(小杉山、3) 慶長16年(1611)8月21日昼、会津に大地震が襲い、飯谷山が抜け落ちて、その麓の大杉山村が埋没した。この供養塔は宝暦2年(1752)8月21日に遭難者供養のため小杉山村が建立した。また慶長8年(1603)の大杉山村御水帳が保存されている。	**夜泣き地蔵尊**　(森野、4) 約200年前に疫病が流行した際、子どもを守るために祀られた。祭礼は約40年前に途絶えたが、平成26年(2014)、有志により復活している。子どもが病気にかかると母親がお参りし、治ると地蔵様に頭巾やよだれ掛けを奉納した。
萱本の百万遍　(萱本、5) 大数珠を納める箱に寛政11年(1799)とあることから、この頃から行われてきたと思われる。鉦をたたきながら大数珠を回し、家や村に悪疫が入らないよう安全を祈った。現在は村おこし委員会により実施されている。	**旧善応寺御正体・銅造薬師如来坐像懸仏**　(上小島、6) 懸仏は御正体ともいい、神社や寺堂などの宝前に懸けられて礼拝されていた。上小島旧善応寺懸仏は如法寺のものよりも小ぶりだが模様はほぼ同じである。銘文はないが室町時代の作である。
上小島のオサイ神様　(上小島、7) 昔、オサイという娘が、ある時、父無し子を身ごもったまま死んでしまった。その後、小川の近くで赤子を抱いたオサイが現われたという話を聞いた和尚が成仏させた。お産の神様として観音堂西側に祀られている。	**一貫清水**　(泥浮山、8) 昔は越後への街道があり、ある時通りかかった旅人があまりに喉が渇いたため、この渇きが救われるなら一貫文の銭子を賜るというと水が湧き出て喉を潤した。これに感謝し、銭を置いて去ったことから、この名が付いたという。
山本遺跡　(上小島、9) 昭和61年(1986)、上小島の字山本地内で発見された。旧石器時代の石刃石器群が数多く発掘され、他に縄文時代前期の土器片も発掘された。石器群の年代から後期旧石器時代後半期の遺跡と判明し、西会津最古の遺跡となっている。	**入小屋の追剥**　(縄沢、10) 入小屋に伊藤掃部という山賊が住んでいた。文禄元年(1592)、1人の旅僧を襲おうとしたが失敗し、終夜教導され、掃部は心を入れ替えた。その後、新墾しついに田畑を作るまでになった。いまなお、居住していたと思われる跡がある。
蝦夷神社　(黒沢、11) 祭神は日本武尊。『新編会津風土記』には「今和泉の南二十間余にあり、石段を昇ること百余級」とあり勧請年は不明、源義経を祀ると伝える。祭りは現在9月15日だが、元は旧暦8月11日であった。神社紋は清和源氏直系の笹竜胆の紋である。	**小島煉瓦工場騒動**　(上小島、12) 明治40年(1907)春、岩越鉄道敷設工事に付随した騒動である。2つの煉瓦工場間の敵対騒動が起こり、消防団を巻き込み、警官が多数駆けつけ、逮捕者を出す事件となった。

二栗村　(長桜、13) 慶長16年(1611) 8 月21日の会津大地震は、上谷地区の二栗村を廃村としてしまった。ただ一人生き残った老婆が長桜村に移住し、後に夫婦養子を入れて家名を残している。	**気付清水**　(牛尾、14) 牛尾村の北 1 町にあり、周 3 尺、気付清水と呼ばれている。伝えでは、源義家朝臣このところにおいて喉が渇き水を所望したところ、にわかに湧き出した清水という。
早乙女踊り　(黒沢、15) 黒沢では現在も受け継がれており、黒沢公民館に法被、太鼓などを保管していて、祝い事などの座敷踊りとして伝えている。現在、伝達講習会を毎年実施している。	**上小島遺跡**　(上小島、16) 集落の北側、明神橋に通じる道路の両側にある字塩田・舟場上・馬場下を総称して上小島遺跡という。発掘調査の結果、敷石住居跡や縄文時代中期から後期にかけての土器が数多く発掘された。
黒沢水害とブラジル移民　(黒沢、17) 昭和31年(1956) 7 月14日、雨が降り続き、橋を越える水量となり、16日夜、住民が避難。17日午前 3 時頃にようやく小降りになったが多くの家屋が濁流にのまれた。同年11月に被災した住民58名がブラジルに移住した。	**女房沢と機織り滝、雨降り滝**　(青坂、18) 不動滝の下流に機織り滝がある。水の流れる様子が機織り機を伸ばした形に似ており、その昔、化生の女が毎日この滝に来て機を織っていたというので、名づけられたと伝えられている。その下流には雨降り滝がある。
上ノ台遺跡　(上小島、19) 昭和63年(1988)から平成元年(1989)にかけて発掘調査が行われた。平安時代の集落跡で、竪穴住居跡などが見つかり、遺物としては土師器・須恵器・鉄鏃と若干の縄文土器が発掘された。	**赤羽根鉱山跡**　(出ヶ原、20) 開山は古く、天正19年(1591)の安土桃山時代といわれる。金・銀・銅・亜鉛などの鉱山として会津藩の財源はもちろん、国の財源も賄っていたと伝えられており、佐渡金山開山までは全国 1 位の採掘量であったという。
虫送りと鳥追い　(黒沢、21) 虫送りは、 7 月20日の土用入りの日。稲が穂をはらむ頃になると害虫がつくので、田畑から生きた虫を取り、ススキのツトコに入れて唱えながら村境まで送り、川に流す。鳥追いは 1 月15日。	**伊豆原山神社と御神木**　(出ヶ原、22) 出ヶ原集落にあり、本殿は 3 間×2.5間、拝殿は 2 間× 1 間。老杉とモミの木樹齢650年以上といわれる大木が林立。境内一帯にサクラ、スギ等が茂り、天神の森のたたずまいとなっている。祭日は 4 月17日で毎年盛大に催されている。
発電所跡　(黒沢、23) 大正 2 年(1913)に黒沢発電所として開設された。大正 5 年(1916) 1 月 8 日、野沢・黒沢に規制はあったが、電燈が灯り、同年 6 月に野沢電気株式会社が設立された。現在、水路跡や用水の落し口・水路出口・タービン跡が残っている。	**西方街道、乞食(ほいど)岩、出臍岩**　(黒沢、24) 大沼郡三島町西方から来ると、乞食岩が昼食時の一休みする所となり、岩にたくさんの落書きがある。判読不能の文字もあるが、お店の屋号が多い。出臍岩は青一色の山膚に突出した片麻岩の大塊のことである。

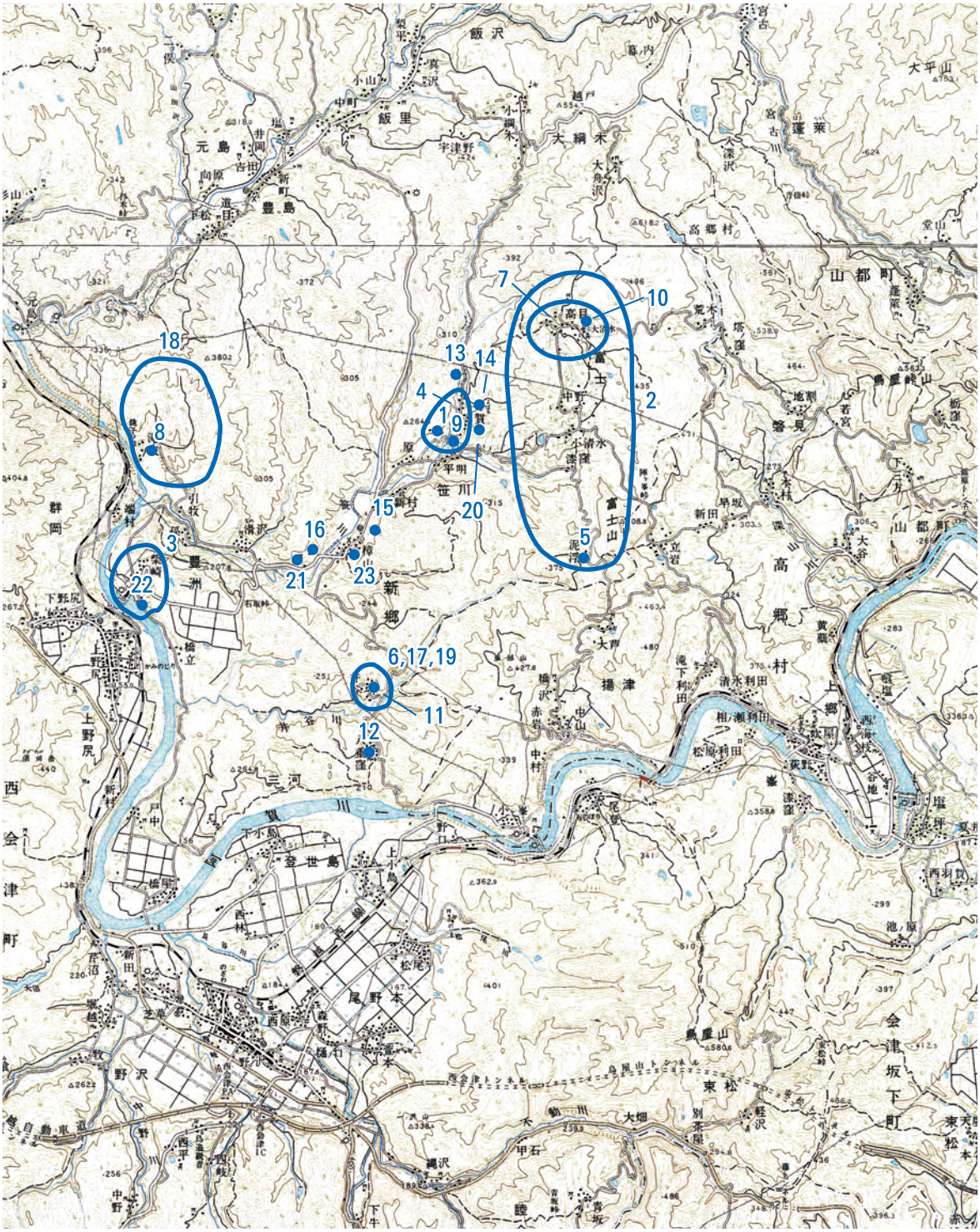
③ 群岡地区

1 根拆神社
2 上野尻の街並み
3 蟹沢館跡
4 大沼堤及び水路
5 須刈岳
6 丑が山鉱泉跡
7 阿賀川舟運の船着き場・中島
8 川谷遺跡
9 埋蔵金を隠した？諏訪神社
10 屋敷人形芝居道具
11 男滝・女滝
12 おんば様
13 照谷寺
14 諏訪壇
15 諏訪神社
16 稲荷神社
17 山神社
18 雷神社・秋葉山神社
19 鳥井峠
20 開法峠
21 宝川宿と石畳
22 勝善寺
23 車峠の茶屋
24 銚子ノ口
25 上野尻発電所の桜

根拆神社　(下野尻、1) 古くは大天神社と称し、根拆神社という名称になったといわれる伝説があるという。当村で最も古い神社というが、その年代は明らかでない。もとは現在ある神社のうしろにある山の頂上にあった。	**上野尻の町並み**　(上野尻、2) 野沢宿をすぎると、阿賀川左岸を岩ヶ崎、新村と北上し、須刈岳を左に見るあたりから西に方向を変え、坂道(ドノ坂)を登り西光寺前に至る。道の中央には掘り割りがあり、江戸時代の他の駅所と同じ構造であった。
蟹沢館跡　(上野尻・下野尻、3) 越後街道の上野尻と下野尻の境界に位置しする城館跡。別称大崎館跡。『新編会津風土記』によると、年代は不明であるが、薄石見頼包が築いたとされている。南北30m、東西25mと小規模で、堀切・竪堀・土塁・虎口が確認できる。	**大沼堤及び水路**　(芹沼、4) 慶長の大地震により大沼・小沼が生まれ、年代不明だが上野尻村の水田の用水として利用が始まる。周囲約2km、貯水量は約19万㎥となっている。
須刈岳　(上野尻、5) 標高438m。昔、雨が降らず作物に影響が出てきたとき須刈岳に登り雨乞いをした。また、頂上には作神様を祀ってあり、麓の上野尻の住民の信仰の山で、頂上からは飯豊連峰や下野尻集落、阿賀川の銚子ノ口が眺望できる。	**丑が山鉱泉跡**　(上野尻、6) 国道49号線の岩ヶ崎向かいが入り口で、先に進むと左側の岩の割れ目から鉱泉が出ている。岩の割れ目から横に溝が掘られていて、昔の湯船に誘引していたと思われる。昭和の初期まで上野尻の住民が営業していた。
阿賀川舟運と船着場　(上野尻、7) 上野尻駅の阿賀川側に中島という船着き場があった。阿賀川を下る舟運は、銚子ノ口が狭隘で急流なため、一度ここで陸揚げされており、重要な交易拠点となっていた。	**川谷遺跡**　(川谷、8) 川谷集落から屋敷に至る道を約500m入った道路の東側。鬼光頭川の東岸・丘陵の突端に位置し、現在は原野。縄文の中期から後期で石斧など石器の出土がある。
埋蔵金伝説　(上野尻、9) 鶴ヶ城での籠城戦が起っているとき、鉄砲の調達と他藩の協力のために城内の金貨を充てようとした。それが会津若松市から舟で日向内記の関係者が、西会津町上野尻の諏訪神社へ隠し、近くに埋めたのではないかという。	**屋敷人形芝居道具**　(屋敷、10) 白坂集落から南南西に2㎞入った屋敷集落の藤原家に伝わる指遣いの人形芝居。大部分の人形はなくなってしまったが、西会津小学校の児童が残った一部を引き継いでいる。
大滝行滝と不動信仰　(熊沢、11) 熊沢集落の奥約5㎞の鬼光頭川の上流にあり、今は男滝・女滝とも言われる。滝の岩窟の中に不動明王を祀ってあり、修験の行場または雨乞いの場であった。大同年間(806～810)に弘法大師が護摩修行を行ったので行滝ともいう。	**おんば様**　(熊沢、12) 熊沢集落の奥に祀られており、平成18年(2006)に立替えられたが、一間四方の御堂におんば様が祀られている。安産の神様で時々お詣りに来る人もいる。

小川庄三十三観音　(川谷、13) 日出谷中村の護徳寺を一番として津川・川谷・三川・上川・鹿瀬・揚川・津川を巡る。西会津では川谷の照谷寺のみである。五番六字観音で新潟県からの参拝者もあるという。	**諏訪壇**　(上野尻、14) 永仁 2 年(1294)に会津領主芦名盛宗が信州諏訪大社から武の神・農耕の神として勧請の折、上野尻明神前に壇を作って御神輿を安置し休息された所。神輿が出立する際、地元住民が祠を建てて祀った。祭神は建御名方神。
諏訪神社　(上野尻、15) 正和 4 年(1315)に諏訪壇より現在地に遷し、建立された。本殿、幣殿、拝殿があり広さ30坪ほど。以来700年余、上野尻地区の中心神社として毎年盛大に神事が執り行われている。祭神は建御名方神。	**稲荷神社**　(上野尻、16) 寛文 8 年(1668)に上野尻新村集落の人々が当時、凶作による生活の苦しみなどによる困窮から豊饒、平穏を祈る新たな神社の建立を思い立ち、勧請した。祭神は倉稲魂神。
山神社　(上野尻、17) 至徳元年(1384)に勧請され、社殿の改築など変遷を経た。現在の社殿は昭和25年(1950)に修理されたもので、明治30年(1897)頃まで境内に「おこもり堂」があった。祭神は岩長比売命で、町内の大久保にある大山祇神社と同じ女神。	**雷神様・秋葉山神社**　(上野尻、18) 上野尻の西光寺の裏の国道脇の堤の方向に進み、すぐ右側に上ったところに雷神様、そして堰を越えて上っていくと秋葉山神社がある。祭神は火之迦具土の神で、火難よけの神である。
鳥井峠　(宝川、19) 宝川集落より西14町余、飯豊山参拝のため一の鳥居を建てたところからこの名がある。この峠を境にして越後と陸奥の国の分岐点となる。	**開法峠**　(宝川、20) 宝川集落より南東の方10町余、峠の上という所にあったが享和 4 年(1804)、峠の下、鬼光頭川の西側に新道ができた。道路の西側岩場より「トントン清水」が湧き出ているが、古い記録にある開法峠清水なのかは不明である。
宝川宿と石畳　(宝川、21) 一般的には道路に平行して建てられるが、宝川宿の大部分の家が鋸歯のように手前が広く、奥行きが狭い並びになるという他の宿には見られない特徴がある。また、道路中央には幅 2 尺の水路があった。	**勝善寺**　(宝川、22) 宝川集落の西端高台に真言宗宝川山勝善寺がある。大同 2 年(807)に空海が地蔵菩薩の像を刻み一宇を建て、徳一が草創したと伝えられている。
イザベラ・バードと車峠の茶屋　(下野尻、23) イザベラ・バードはドノ坂を上りながら西光寺の鐘の音を聞いた。西光寺をすぎたあたりで、その日の宿泊地である車峠の茶屋を稜線上に発見している。	**景勝の地(銚子ノ口・発電所の桜)** (上野尻・端村、24･25) 銚子ノ口は阿賀川の峡谷の中で特に有名な景勝地。地形が銚子のくびれに似ていることから名付けられた。発電所の桜は上野尻発電所の竣工を記念して植えられた。年々植えられ、今は100本あまりの立派な桜並木である。

④ 新郷地区

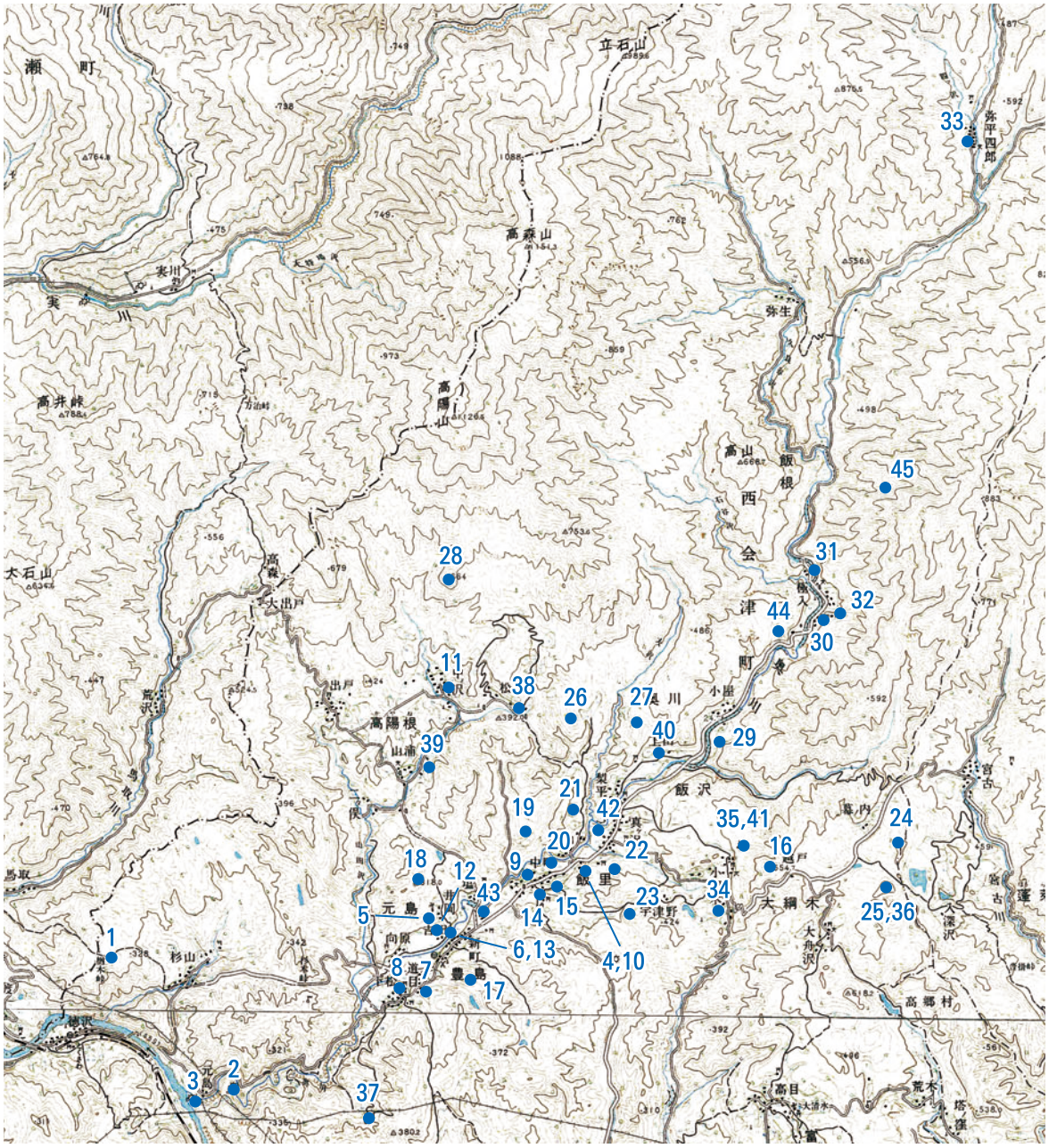


1　向山の薬師堂
2　冨士の歳の神
3　大火のあった柴崎
4　消防組織創設となる大火のあった呼賀
5　泥浮の開村
6　上田佐十郎の生まれた井谷
7　高目村の椀作り
8　滝坂にある石工の作品
9　呼賀にある石工の作品
10　高目の石仏
11　秋葉神社の力石
12　八重窪館跡
13　呼賀稲荷神社
14　呼賀不動明王堂
15　新村と新田場
16　正源寺
17　山口助之進が住んだ井谷
18　滝坂の地すべり
19　附け木製作をしていた井谷
20　笠松山の隔離小屋
21　天王神社
22　殉難碑
23　旧新郷村役場

向山の薬師堂　(向山、1) 滑沢の中野に三十坊があったが、佐原義連に寺領を没収された時、西新寺の僧が還俗して山口と改め、向山にきて薬師如来を建立したのが始まりという。明治元年、ヤーヤー一揆の時農民が薬師堂前の広場に集まり、気勢を上げたという。	**冨士の歳の神**　(高目・小清水・漆窪、2) 小正月の1月15日に行うことになっていて、小清水集落では10年くらい前から復活している。地域により柱の数が異なる。御神酒を飲み、スルメやモチをあぶって食べ、年男や年女を胴上げし、厄落としする。
柴崎の大火　(柴崎、3) 嘉永6年(1853)7月8日、大火発生。強い風もあり23軒のうち21軒が焼失する。寺や土蔵小屋なども焼け落ち、家財や食料などを失ってしまった。籾400俵を無利子で借りたりして、再建に尽くした。	**消防組織**　(呼賀・平明、4) 明治41年、呼賀集落で母屋2軒と土蔵1の火災をきっかけに、平明集落と呼賀集落で私設の消防組を組織した。明治45年4月、呼賀で住宅4戸を含む7棟の火事を受け、6月に公設の消防組を設置した。初代組頭は長谷沼久次である。
泥浮の開村　(泥浮、5) 嘉永6年(1853)、平明の徳右衛門が30町歩の土地を譲り受け、開拓を始める。その功績により泥浮分の肝煎と会沢の名字を名乗ることを認められたという。慶応年間(1865〜1868)には2戸となっている。	**慈善家　上田佐十郎**　(井谷、6) 神仏へ尊敬厚く、慈善心に富み、天保4年(1833)より60年間に施与せし米101俵余、籾263俵、金125両余、また接待草鞋として12,500足という。藩等より12回賞され、県よりも表彰される。明治30年、92歳で生涯を閉じた。
高目村と椀作り　(高目、7) 延享3年(1746)、藩の移出品の調査によると漆椀大谷組で30両余とある。文政12年(1829)、山三郷27村の産業には高目村のみ塗師とあり三ツ椀を生産していた。地場産業育成のために肝煎が椀作りを推奨した。	**新郷村基本財産**　(新郷地区) 明治10年、区長安部秀正の勧めで1戸平均10円を基準として10ヶ年の積立をするも8ヶ年で止む。これを学資金として貸付けするも滞納が多くなり、明治40年、武藤虎一村長の努力で回収し、2,000円の基本財産とすることができた。
滝坂の石工　(滝坂、8・9) 江戸時代以降、多くの石工が滝坂から輩出した。石材は「孫目石」といわれた。滝坂・呼賀・戸中・高目などにその作品をみることができる。	**高目の石仏**　(高目、10) 町指定重要文化財であり、慶長17年(1612)に建立され、方円中央にあり真南を向いている。検地の紛争があり胆煎が若松に呼び出され骸となって帰ってきたので、憐れみ、埋葬した場所に立てたという。背面には変形の十字跡がある。
秋葉神社の力石　(井谷、11) 力石は昔5個あったが、現在は4個になっている。昭和30年(1955)頃まで祭りの余興の1つとして若い人に力試しをさせていた。小さな石は持ち上げられたが大きいのを持ち上げられる者はなかなかいなかった。	**八重窪館跡**　(八重窪、12) 八重窪集落中心部と山城とで構成される。館跡は「天空の砦」で四方が断崖となり外敵の備えには万全である。数ある山城の中でも集落全体が機能を果たしている形式は珍しい。

呼賀稲荷神社　(呼賀、13) 呼賀集落の北方に位置する稲荷神社は、応徳年間(1084～1086)に源義家が奥州征伐の折、父頼義のもとへ書簡を運んだ2頭の白狐を稲荷大神の館脇に祀ったことに始まる。社殿は老朽化が進んだため、現在地に新築された。	**呼賀不動明王堂**　(呼賀、14) 応徳2年(1085)に源義家が奥州征伐の折、眼病を患い沢水で目を洗ったところ、たちまち平癒したので、上流の滝のもとに不動明王を祀った。堂は館ノ越の下方にあったが、滝上部の崩落により現在地に移転された。
新村と新田場　(新村、15) いつの頃か原村の土地を譲り受け、一村となり新町村というも、万治年中(1658～1661)新村と改める。元々水田が少なく、くらしは楽でなく、文政年中(1818～1831)に開田の計画がなされ、平明村の土地に堤を築き開田したという。新郷連絡所の前である。	**正源寺**　(滑沢、16) 口伝によれば、弘仁9年(818)に弘法大師の弟子正源僧都による開基という。昔より真言の道場であり、文禄元年(1592)に若松道場小路町観音寺末山となる。古くは今の地より南東の方にあり、文禄5年(1596)に今の地に移す。
地方御家人　山口助之進　(井谷・高目、17) 安永2年(1793)、藩では下級武士を在郷に住まわせ、20石前後の土地を与え、耕作させるようにした。山口助之進は井谷に住んだが、井谷では土地が足りず高目村に7石余の助之進給田がある。	**滝坂の地すべり**　(滝坂、18) 笹川と阿賀川合流地点を中心に地すべりが何度も起き、過去には阿賀川をせき止めたこともあった。平成8年(1996)からは国直轄の対策事業となり、我が国最大級の地すべり地帯である。
附け木製作　(井谷、19) 附け木の材料は松の木で、夏の間に伐っておき、冬に山から持ってくる。附け木の長さに切った松の木を削り、乾燥後、黒く着色した硫黄を付けて製品にした。2軒が附け木を作っていた。	**赤痢発生**　(冨士・笹川など、20) 明治32年8月、冨士や笹川などに発生した。小清水では小屋1棟を借り、笹川では笠松山に小屋を建て患者を隔離した。薬品は坂下町の広木薬局から求めている。8月23日までの患者は70人、死亡は11人である。
天王神社　(滑沢、21) 「山腰にあり。相伝ていう。昔此村の山中に魑魅(山林の気によって生ずるという怪物・すだま)ありて災いをなせる故、村民相談して尾張国海部郡より文治5年(1189)勧請」とある。明治になると永川神社と改める。	**電燈ともる**　(新郷地区) 昭和2年8月、山郷村から陳ヶ峯を通し、冨士と笹川に電燈をともすことができるようになった。電柱はすべて村負担、経費1,200円を負担した。
殉難碑　(柴崎、22) 大正11年(1922)11月14日の柴崎渡船場の船頭であった武藤善伍は、その日転覆した船から一児を救い、もう一児救おうとしたが流れに巻き込まれ殉職した。28歳であった。碑は大正12年(1923)建立。	**役場焼失**　(樟山、23) 大正14年に新築した役場が昭和6年3月18日の暁に焼失。書類・機器器具一切も焼失。原因は、前日村会時の大火鉢の余熱から出火したという。

⑤ 奥川地区



1	上様御小休止所	16	花立峠の飯豊山遙拝所	31	安藤有益関係資料
2	奥川第一発電所	17	奥川の山城(杢根沢館跡)	32	大聖歓喜天社
3	奥川第二発電所	18	奥川の山城(八森山館跡)	33	木地師と飯豊参詣宿の村
4	龍泉寺著色仏涅槃図	19	奥川の山城(斎藤林館跡)	34	旧福聚院修験資料
5	奥川七観音(羽黒山)	20	奥川の山城(柳沢館跡)	35	西光寺阿弥陀如来坐像
6	奥川七観音(不求庵)	21	奥川の山城(奥川小山館跡)	36	大舟沢の馬頭観音
7	奥川七観音(上臺岡)	22	奥川の山城(反田山館跡)	37	下松男山八幡神社
8	奥川七観音(一森)	23	奥川の山城(丸山館跡)	38	諸国六十六部巡礼供養塔
9	奥川七観音(野原)	24	奥川の山城(三境館跡)	39	百万遍
10	奥川七観音(嶺雲山)	25	奥川の山城(大船山館跡)	40	奥川八景
11	奥川七観音(高陽嶺)	26	奥川の山城(越中林館跡)	41	愛宕堂将軍地蔵
12	山陵塚	27	奥川の山城(上田館跡)	42	新井田遺跡
13	不求庵	28	奥川の山城(権現山館跡)	43	新町遺跡
14	中町地蔵講	29	かたくり群生地	44	堂平遺跡
15	寄光寺	30	金蔵寺歓喜天社絵馬	45	かげろうの滝

上様御小休所　(杉山、1) 楢木峠にある。会津松平8代藩主容敬が文政12年(1829)に新発田藩との国境検分や領内見聞のため巡見を行った。その帰路、小休止をした場所に建てられた碑である。郷頭・肝煎など大勢が出迎えた。	**奥川第一・第二発電所**　(元島、2・3) 町内では黒沢発電所に次ぐ早い建設であり、大正9年(1920)に奥川村の大舟沢・弥平四郎を除く全戸に電灯が灯された。奥川に堰提を設けて貯水し、下流2ヶ所に発電所を設ける水路式の発電所である。
龍泉寺の著色仏涅槃図ほか　(真ヶ沢、4) 延享2年(1745)、檀家により寄進されたもので、縦242cm、横115cmの仏画である。龍泉寺には、ほかに絹本著色十六善神像図や鉄眼版大般若経六百巻などがある。いずれも町指定重要文化財である。	**奥川七観音**　(道目ほか、5～11) 明治19年(1886)に選定されたもので、御詠歌は宮城三平によって詠まれる。井岡羽黒山・吉田不求庵・道目上臺岡・下松一森・中町野原・真ヶ沢嶺雲山・中ノ沢高陽嶺を七観音としており、七観音巡りが行われている。
宮城三平と「山陵塚」「不求庵」 (吉田、12・13) 文政3年(1820)に生まれた宮城三平は、藩校日新館に入り、のち江戸昌平黌に学んだ。3度の山陵巡拝の際、持ち帰った「霊石」を納めたのが「山陵塚」である。草庵「不求庵」では多くの文化人との交流があった。	**中町地蔵講**　(中町、14) 安永元年(1772)、川に沈んでいた地蔵尊を村人が祠を建てて祀り、嘉永4年(1851)に堂宇を新築して、入仏供養した。これを機に講中を結び、現在も毎年3月24日・8月24日の2回実施している。
寄光寺(修験寺)　(中町、15) 羽黒山と号し、真言宗古義派。大法院ともいう。文安5年(1448)に修験岩橋元祐が飯豊山裏道を開き、これより先達となる。また、出戸村岩屋虚空蔵尊の御堂建立の際には入仏執行を行った。中町集落にある。	**花立峠の飯豊遥拝所**　(小綱木・大舟沢、16) 小綱木集落から大舟沢集落に至る峠である。花立峠には「飯豊神社遥拝所」があった。花を立てたという石の台が残る。極入・宮野集落にも遥拝所があった。
奥川の山城　(真ヶ沢ほか、17～28) 奥川地域には12ヶ所の中世城跡が確認されており、そのうちの「柳沢舘跡」を除けばすべて山城である。応永27年(1420)、芦名氏に攻撃された新宮氏は「奥川の城」へ籠もったといわれるが、その場所は特定できていない。	**かたくり群生地**　(小屋、29) 小屋集落の東側、奥川軌道跡地やその周辺の山林、墓地等に群生地があり集落民によって保護される。平成25年(2013)から地域おこしの一環として「かたくり鑑賞会」を実施している。
金蔵寺歓喜天社絵馬　(極入、30) 明治31年(1898)、歓喜天社に奉納された絵馬で紙に描かれる。町指定重要文化財。絵は「杣人に襲われる女性を虎が救う図」とも「娘が父親の身代わりとなり虎の餌食になる図」とも解される。現在は金蔵寺本堂に掲額される。	**安藤有益関係資料**　(極入、31) 元禄元年(1688)に会津藩郡奉行安藤有益は「遠郷」蟄居の罪で極入村へ送られた。5年後に許され若松へ戻った。その間、書かれた「東国物語」の草稿本や本人使用の測量機などが残されている。

大聖歓喜天社　(極入、32) 大聖歓喜天像は河沼郡会津坂下町高寺より移されたと伝える。また、御堂の彫刻は佐渡大工西崎福清の作、扁額は徐晏坡の書である。また、近くに観音堂があり、千手観音・おんば様が安置されている。	**木地師と飯豊山参詣宿の村**　(弥平四郎、33) 寛文3年(1663)、弥平四郎に移り住んだとされる木地師集落である。木地師の祖と言われる惟喬親王の軸が保存され、山神社の鳥居には菊花紋が彫られる。飯豊山神社参拝者の宿泊所としての役割も果たした。
旧福聚院修験資料　(小綱木、34) 奥川には修験寺が小綱木に2、中町村と梨平に各1の4寺があり、福聚院はその1つで天台宗本山派。土蔵内には護摩を焚く祭壇が往時のまま残されている。	**西光寺阿弥陀如来坐像ほか**　(小綱木、35) 西光寺本尊である木像阿弥陀如来坐像、脇侍観音菩薩像と勢至菩薩像はいずれも胎内仏を供える珍しい造りである。
大舟沢の馬頭観音　(大舟沢、36) 正式名称は久須賀森馬頭観音といい、源義家が奥州征伐の際に馬が腹痛を起こし、祈念したという。応徳2年(1085)に堂宇を建立したと伝える。馬の病気や出産の折に参拝した。	**下松男山八幡神社**　(下松、37) 山城男山より勧請したと伝え、下松集落東の山中にあった。一説には義家公東征の際、真ヶ沢に神社を遷したともいわれる。明治5年に焼失したという神社跡には石祠2基が残されている。
諸国六十六部巡礼供養塔　(松峯、38) 住人が塔婆様と呼ぶ村東の峠上に立つ碑。風化が著しく、今では大部分が判読できないが、「諸国六十六部巡礼供養塔」と刻してあったことが判っている。村人である佐太郎は行者の影響を受け六十六部聖となった。	**百万遍**　(山浦、39) 山浦集落では毎年2月2日に持ち回りの当番が頭家となり行われる。女性たちが集まり、百万遍と唱和しながら数珠を回すが、頭家渡しの儀式が行われる。暦などのついた縄は玄関先に吊るして厄除けとした。
奥川八景　(奥川地区、40) 大正6年(1917)、梨平集落の長谷川重政(重内)は奥川橋の朝霞・吉田の落雁・権現堂の夕照・龍泉寺の晩鐘などを「奥川八景」として選び歌を詠んだ。のち、絵が加えられ、襖絵として保存されてきた。現在は軸装されている。	**愛宕堂将軍地蔵**　(小綱木、41) 「ふる里福島路百八地蔵尊めぐり」の第二十七番霊場になっている。甲冑を身に着け、白馬に乗り、厨子に納められていて、正式名称は騎馬像愛宕将軍地蔵尊という。現在は、西光寺別堂に納められている。
新井田遺跡ほか　(真ヶ沢ほか、42〜44) 真ヶ沢集落西の段丘面から発見された縄文後期の遺跡。多くの石鏃や土器などが採取された。この他、新町遺跡や堂平遺跡から大型の石棒や石皿・石鏃が発見されている。	**かげろうの滝**　(極入、45) 極入北の蛇沢奥に何十丈もある滝があり、山の神様が滝で髪を洗い梳かしていた。山仕事の衆7人が滝を汚したことで山の神は怒り大雨を降らせて7人を押し流してしまった。今でも助けを求める声が聞こえるという。